

平成28年度

## 島根県農業技術センター試験研究成果発表会開催要領

- 1 主 旨 新たな農業技術の早期普及定着と生産振興に向けて、当センターの最新の試験研究成果を公表します。今回はイチゴ県オリジナル品種の育種から生産までの連携した試験研究、農作物安定生産への取り組みをテーマに発表します。
- 2 主 催 島根県農業技術センター
- 3 開催日時 平成28年7月8日（金） 13:00～16:00
- 4 会 場 島根県農業技術センター 花振興棟大会議室  
(出雲市西新町2丁目1035-3)
- 5 参集者 農業者、市町村、農業団体、大学、県関係機関ほか
- 6 発表課題 9課題

### I イチゴ県オリジナル品種の育成・普及と収益性向上技術の確立

- ①イチゴ県オリジナル品種の育成 13:05～13:17

イチゴ産地の活性化を図るため、島根県ではオリジナル品種の育成試験を行っています。その中で、高糖度で食味が非常に良い‘島系 22-148’を育成しました。この品種はその良食味から一部の生産者に着目され栽培が始まりました。消費者からも好評を得て、生産意欲の向上ならびに栽培面積の拡大に繋がっています。

- ②イチゴ県オリジナル品種‘島系 22-148’の1～2月収量を倍増する栽培法 13:18～13:30

生産者より、「食味が良い1～2月は収穫の中休みに入るし、曇天により果実に着色ムラが生じやすい」とのご指摘をいただきました。そこで、定植期をえき花房分化期まで遅らせた結果、中休みが解消し、1～2月の収量倍増が実現しました。また、畝面マルチを黒色から白色に変えることで、果実着色が改善することが明らかとなりました。

- ③イチゴうどんこ病に効果のある薬剤について 13:31～13:43

県内のイチゴ普及品種はうどんこ病に弱く、多発すると可販収量が激減するため、栽培期間を通して定期的な薬剤防除が欠かせません。しかし、近年多発傾向にあり、防除薬剤に対する耐性菌の発生が懸念されます。そこで、現地のうどんこ病菌を採取し、調査した結果、各種薬剤の防除効果を明らかにしました。

- ④イチゴ県オリジナル品種の普及と課題 13:44～13:56

良食味であることから現地栽培が行われているイチゴ県オリジナル品種‘島系 22-148’について、この品種が地域に定着した経過や課題を整理し、今後の品種導入における課題と方向性について発表します。

→①②③④一括でコメントおよび質疑

13:56～14:15

(休憩)

## Ⅱ 農作物安定生産への取り組み

- ⑤イチジク‘蓬菜柿’のコンテナ栽培で発生したカルシウム欠乏症とマグネシウム欠乏症について 14:20~14:40

イチジク‘蓬菜柿’のコンテナ栽培で、新梢先端部の異常および中～上位葉における葉脈間黄化の2つの障害が発生したため、これらの症状の原因を明らかにする調査を行いました。その結果、これらの症状はカルシウム欠乏症とマグネシウム欠乏症であることがわかり、その対策を明らかにしました。

- ⑥ブドウ‘シャインマスカット’の高品質果の長期・省力・安定生産技術の開発 14:40~15:00

‘シャインマスカット’の10a当たり作業時間は約780時間と多く、とくに結実管理や果房管理に集中するためデラウェアとの作業競合が発生しています。そこで、結実管理、摘粒等の果房管理時間の削減技術を開発しました。また、年末出荷をねらった抑制栽培技術や貯蔵方法を開発しました。

- ⑦アジサイ県オリジナル品種第3弾‘銀河’の品種特性 15:00~15:20

本品種は、白く縁取られた周囲の花が夜空に散りばめられた星のようで、銀河を想像させます。さらに開花が進むと、中心部の白い花弁が伸長し、雪山のように盛り上がる特徴的な花房を示します。これまでにない花容から新品种コンテストの来場者人気投票でグランプリに輝きました。

- ⑧シクラメンの高温障害を間欠冷蔵で克服 15:20~15:40

近年、夏期の高温が長引く傾向にあり、シクラメンにおいては高温による開花遅延が起き、年末の高価格出荷期を逸してしまう問題が発生しています。そこで、暗黒冷蔵となりゆき条件を繰り返す間欠冷蔵処理を行うことで高温障害を回避、出荷遅延を解消し、適期出荷を行う基礎技術を開発しました。

- ⑨島根県平坦地域を対象としたナタネーソバ有機輪作体系におけるナタネの栽培法 15:40~16:00

ナタネとソバは二毛作が可能で、有機輪作体系を構築する上で有望な作物です。そこで、ソバ後作ナタネの品種選定と、雑草抑制方法を検討した結果、品種は‘ななはるか’と‘ななしきぶ’が有望で、播種期を11月上～中旬とし、播種量350粒/m<sup>2</sup>(1.5kg/10a)程度を全面表層散播する方法が雑草抑制に効果的であることがわかりました。

※各課題の発表順番と時刻は変更する場合がありますので、ご承知ください。

## 7 研究ほ場見学

成果発表の前後の時間に、所内研究ほ場の栽培状況をご覧いただく見学コースを用意します。  
野菜のコースは12:30~12:50(集合場所は花棟玄関前です。12:30分までにお集まりください)、  
水稲・果樹・花きのコースは16:10~16:30(集合場所は発表会終了後に連絡します)